

0125

次官

野

四月廿六日

結

内務省地極第二三號

大正十五年三月十二日

川崎内務次

津野陸軍次官殿

東京市ノ制度ニ關スル件照會

東京市ニ關スル特別制度トシテ東京都制ヲ制定スルノ必要アリ
ト被認候處有ハ特ニ急施ヲ要スルヲ以テ別紙附騰ヲ直接法制局
ニ提出致置候ニ付テハ右ニ關シ御意見有之候ハ直接同局ニ御
申出相煩度

内務

15. 3. 13
午後10時
局長復

15. 4. 7
午後8時
局長

15. 3. 13
午前11時
軍事課

15. 3. 16
午後11時
軍事課

15. 3. 18

15. 3. 25
午後11時
軍事課

新五七號

0127

0126

意見毎

本誌係
此ノ次第
米徳會
仙閣
〃〃〃〃
〃〃〃〃
〃〃〃〃
〃〃〃〃

御
御
御
御

0158

10/01

工政課

0127



都下池ノ法律ト調和然忠シ世帯トスレ

松智司



高也
あき深

七
號

陸軍省
15.3.25
建築課

0128

16.01 工政課

0128

0128

意見書

建築課

一


意見書

工政課

意見書

16.01



東京都制

第一章 總則

第一款 都及其ノ區域

第一條 東京府及其ノ區域内ノ市町村ヲ廢シ從前ノ

東京府ノ區域ニ東京都ヲ置ク

第二條 都ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内

ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ府

縣市^{町村}ニ屬スル事務及將來法律勅令ニ依リ都ニ屬ス

ル事務ヲ處理ス

第三條 都ノ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之

ヲ定ム但シ區市町村(都ノ區市町村ヲ謂フ以下之ニ

同シ又ハ市町村ノ設置ヲ伴ハサル場合ニ於テハ都

參事會並關係アル府縣參事會、區市町村會(都ノ區市

町村會ヲ謂フ以下同シ)及市町村會ノ意見ヲ徵シ内

務大臣之ヲ定ム

所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入セムトスルトキハ前

項但書ノ例ニ依ル

第一項ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ハ都

參事會並關係アル府縣參事會、區市町村會及市町村會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 都ノ境界ニ關スル爭論ハ内務大臣之ヲ裁定

ス其ノ裁定ニ不服アル都市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

都ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ内務大臣之ヲ決定スヘシ其ノ決定ニ不服アル都市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ裁定~~決定~~又ハ前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲

シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ都及關係市町村ニ交付スヘ
シ

第二款 都住民及其ノ權利義務

第五條 都内ニ住所ヲ有スル者ハ都住民トス

都住民ハ本法ニ從ヒ都ノ財産及營造物ヲ共用スル
權利ヲ有シ都ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第六條 帝國臣民タル年齢二十五年以上ノ男子ニシ
テ二年以來都住民タル者ハ都公民トス但シ左ノ各

號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 禁治産者及準禁治産者

二 破産者ニシテ復権ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ為公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶

助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル

者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至

三

第二十一章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲クル罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者但シ其ノ期間五年ヨリ短キトギハ五年トス

七 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲クル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナ

キニ至ル迄ノ者

都ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第一項二年ノ期間ハ都ノ境界變更ノ爲中断セラル
ルコトナシ

第七條 都公民ハ都ノ選舉ニ參與シ都ノ名譽職ニ選

舉セラルル權利ヲ有シ都ノ名譽職ヲ擔任スル義務

ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選

ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執

四

行セサルトキハ都ハ一年以上四年以下都公民權ヲ
停止スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ為常ニ都内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齢六十年以上ノ者

四 官公職ノ為都ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上都又ハ区市町村ノ名譽職ニ任シ爾後

同一ノ期間ヲ経過セサル者

六 其ノ他都會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認

ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第八條 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサ

ル者及歸休下士官兵ヲ除ク)及戰時若ハ事變ニ際シ

召集中ノ者ハ都ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス兵籍

ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ

除ク)及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同

五

シ

第三款 都條例及都規則

第九條 都ハ都住民ノ權利義務又ハ都ノ事務ニ關シ

都條例ヲ設クルコトヲ得

都ハ都ノ營造物ニ關シ都條例ヲ以テ規定スルモノ

ノ外都規則ヲ設クルコトヲ得

都條例及都規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示ハ

ヘシ

第二章 都會、市、部會及郡部會

第一款 組織及選舉

第十條 都ニ都會、市部會及郡部會ヲ置ク
都會ハ都會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部會ハ第百二十三條ノ市部ノ區域ニ屬スル選舉區

ニ於テ選舉セラレタル都會議員ヲ以テ之ヲ組織シ

郡部會ハ同條ノ郡部ノ區域ニ屬スル選舉

區ニ於テ選舉セラレタル都會議員ヲ以テ之ヲ組織

ス

第十一條 都會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選

舉人之ヲ選舉ス

*

都會議員ノ定數ハ百二十人トス

都ノ人口三百七十萬ヲ超ユルトキハ人口十萬ヲ加

フル毎ニ議員一人ヲ増加ス但シ議員ノ定數百五十

人ヲ超ユルコトヲ得ス

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増

減セス

第十二條 都會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ市部ノ區域ニ於テハ第六十七條ノ區ノ區

域ニ依リ郡部ノ區域ニ於テハ勅令ヲ以テ定ムル區域ニ依ル
中務大臣ニ依リ

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ハ都會ノ議決ヲ
經テ都長官之ヲ定ム

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定

ム

郡部ノ區域ニ屬スル選舉區ヨリ選舉スヘキ議員數
ハ十二人ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條 都公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停

止中ノ者又ハ第八條ノ規定ニ該當スル者ハ此ノ限

ニ在ラス

第十四條

選舉權ヲ有スル都公民ハ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收稅官吏ハ被選舉權ヲ有セ

ス

選舉事務ニ關係アル官吏、都區市町村ノ有給吏員ハ

其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

都ニ對シ請員ヲ爲シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル

事業ニ付都長官若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ

請員ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行

爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、取締役、監查役若ハ之

ニ準スヘキ者、清算人及支配人ハ郡~~ニ~~於~~テ~~被選舉權
ヲ有セス

都ノ官吏及有給~~ノ~~吏員教員其ノ他ノ職員ニシテ在職
中ノ者ハ都會議員ト相兼スルコトヲ得ス

衆議院議員ハ都會議員ト相兼スルコトヲ得ス

第十五條 都會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條 都會議員中闕員ヲ生シタルトギハ三月以

内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ第四十~~四~~條第二項ノ
ハ

規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラ
 サリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中
 ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第五十
 條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十條第四項及第五項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ
 準用ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ選舉セラレタル選舉區ニ
 於テ之ヲ選舉スヘシ

第十七條 区市町村長（都ノ区市町村長ヲ謂フ以下同
 シ）ハ毎年九月十五日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調
 製スヘシ

選舉人名簿ニハ其ノ区市町村内ニ於テ住所ヲ有ス
 ル選舉人ヲ登録スヘシ第九十七條ノ規定ニ依リ都
 公民タル者ニシテ都内ニ住所ヲ有セサル選舉人ノ
 登録セラルヘキ選舉人名簿ハ都長官本人ノ申出ニ
 依リ其ノ申出十キトキハ職權ニ依リ之ヲ定ムヘシ
 選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、住所及生年月日等ヲ

記載スヘシ

第十八條 區市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其

ノ區役所、市役所、町村役場又ハ其ノ指定シタル場所

ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スハシ

區市町村長ハ縦覽開始ノ日前三日迄ニ縦覽ノ場所ヲ告示スヘシ

第十九條 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アル

トキハ縦覽期間内ニ之ヲ區市町村長ニ申立ツルコ

トヲ得此ノ場合ニ於テハ區市町村長ハ其ノ申立ヲ

受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修
正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スヘシ

前項区市町村長ノ決定ニ不服アル者ハ都参事會ニ
訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ都長官又ハ区市町村長ヨリモ
訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 選挙人名簿ハ十二月二十五日ヲ以テ確定

ス

選舉人名簿ハ次年ノ十二月二十四日迄之ヲ据置ク

ヘシ

前條ノ場合ニ於テ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ
依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ區市町村長ニ於テ
直ニ之ヲ修正スヘシ

前條第一項スハ前項ノ規定ニ依リ選舉人名簿ヲ修
正シタルトキハ區市町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示
スヘシ

第二十一條 第十九條ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確

定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタル
トキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ名簿ヲ調製ス
ヘシ

前二項ノ規定ニ依ル名簿ノ調製、縦覧、確定及異議ノ
決定ニ關スル期日及期間ハ都長官ノ定ムル所ニ依
ル

都ノ境界變更又ハ區市町村ノ廢置分合若ハ境界變
更アリタル場合ニ於テ名簿ニ關シ其ノ分合其ノ他
ニ

必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都長官ハ選舉ノ期日前二十日目迄ニ選

舉ヲ行フヘキ選舉區、投票ノ日時、各選舉區ニ於テ選
舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ

第二十三條 議員候補者ヲラムトスル者ハ選舉ノ期

日ノ告示アリタル日ヨリ選舉ノ期日前七日目迄ニ
其ノ旨ヲ選舉長ニ届出ツヘシ

選舉人名簿ニ登録セラレタル者他人ヲ議員候補者
ト爲サムトスルトギハ前項ノ期間内ニ其ノ推薦ノ

届出ヲ為スコトヲ得

前二項ノ期間内ニ届出アリタル議員候補者其ノ選
 舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ期
 間ヲ經過シタル後議員候補者死亡シ又ハ議員候補
 者タルコトヲ辭シタルトキハ前二項ノ例ニ依リ選
 舉ノ期日ノ前日迄議員候補者ノ届出又ハ推薦届出
 ヲ為スコトヲ得

議員候補者ハ選舉長ニ届出ヲ為スニ非サレハ議員
 候補者タルコトヲ辭スルコトヲ得ス

前四項ノ届出アリタルトキ又ハ議員候補者ノ死亡
シタルコトヲ知リタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨
ヲ告示スヘシ

第二十四條 議員候補者ノ届出又ハ推薦届出ヲ為サ

ムトスル者ハ議員候補者一人ニ付二百圓又ハ之ニ

相當スル額面ノ國債證書ヲ供託スルコトヲ要ス

議員候補者ノ得票数其ノ選舉區ノ配當議員數ヲ以

テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ十分ノ一ニ

達セサルトキハ前項ノ供託物ハ都ニ歸屬ス

議員候補者選舉ノ期日前十日以内ニ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ被選舉權ヲ有セサルニ至リタル爲議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 投票區ハ區市町村ノ區域ニ依ル

都長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ區市町村ノ區域ヲ分テテ數投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ヲ合セテ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ投票區ヲ設クル場合ニ於テ必要

十此事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 區市町村長ハ投票管理者ト爲リ投票ニ

關スル事務ヲ擔任ス

投票所ハ區役所、市役所、町村役場又ハ投票管理者ニ
於テ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

投票所ハ投票管理者ニ於テ選舉ノ期日前五日目迄
ニ之ヲ告示スヘシ

第二十七條 議員候補者ハ各投票區ニ於ケル選舉人
名簿ニ登録セラレタル者ノ中ヨリ本人ノ承諾ヲ得

テ投票立會人一人ヲ定メ選舉ノ期日ノ前日迄ニ投票管理者ニ届出ツルコトヲ得但シ議員候補者死亡シ又ハ議員候補者タルコトヲ辭シタルトキハ其ノ届出テタル投票立會人ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ニ依ル投票立會人三人ニ達セサルトキ若ハ三人ニ達セサルニ至リタルトキ又ハ投票立會人ニシテ參會スル者投票所ヲ開クヘキ時刻ニ至リ三人ニ達セサルトキ若ハ其ノ後三人ニ達セサルニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ投票區ニ於ケル

選舉人名簿ニ登録セラレタル者、中ヨリ三人ニ違
スル迄ノ投票立會人ヲ選任シ直ニ之ヲ本人ニ通知
シ投票ニ立會ハシムヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第二十八條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコト

ヲ得ス但シ投票ニ關スル事務ニ従事スル者、投票所
ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限
ニ在ラス

投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ

投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ
 前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ到リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十九條 確定名簿ニ登録セラレサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ

確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所
ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉人名簿ニ登録セ
ラルルコトヲ得サル者ナルトキハ投票ヲ為スコト
ヲ得ス選舉ノ當日選舉權ヲ有セサル者ナルトキ亦
同シ

第三十條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第三十一條 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ

投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決
書若ハ判決書ヲ提示シテ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ投票所ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間
ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ議員候補者
一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票ニ關スル記載ニ付テハ勅令ヲ以テ定ムル數字
ハ之ヲ文字ト看做ス

自ラ議員候補者ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ

投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ都長官ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用
フヘシ

選舉人名簿ノ調製後選舉人他ノ投票區ニ住所ヲ移
スコトアルモ前所屬ノ投票區ニ於テ投票ヲ爲スヘ
シ

第三十二條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ
投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票

管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ
表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ封函セシムヘシ

投票立會人ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前
二項ニ同シ

第三十三條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關ス
ル顛末ヲ記載シ二人以上ノ投票立會人ト共ニ之ニ
署名スヘシ

第三十四條 投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ其

モ

ノ指定シタルニ人以上ノ投票立會人ト共ニ町村ノ
投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、區市ノ投票區ニ於
テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉
長ニ送致スヘシ

第三十五條 天災事變等ノ爲投票ヲ行フコト能ハサ
ルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ都長
官ハ當該選舉區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日
時ヲ定メ投票ノ期日前七日目迄ニ之ヲ告示シ投票
ヲ行ハシムヘシ

第三十六條 選舉長ハ區長、市長及都長官ノ指定シタ

ル都ノ官吏又ハ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

選舉長ハ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

選舉會ハ區役所、市役所又ハ選舉長ノ指定シタル場

所ニ之ヲ開ク

選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第三十七條 都長官特別ノ事情アリト認ムルトキハ

區劃ヲ定メテ開票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ開票區ヲ設クル場合ニ於テ必

ス

要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 第二十七條ノ規定ハ選舉立會人ニ之ヲ

準用ス

第三十九條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタ

ル日ノ翌日選舉會ヲ開キ選舉立會人立會ノ上投票

函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スハ

シ但シ場合ニ依リ投票函ノ送致ヲ受ケタル日選舉

會ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第三十二

條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票區毎ニ投票ヲ點檢スヘシ

天災事變等ノ爲選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ選舉長ハ更ニ其ノ期日ヲ定ムヘシ

第四十條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第二十八條第

一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十二條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二 議員候補者ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ議員候補者ノ氏名ヲ記載

シタルモノ

四 被選舉權ナキ議員候補者ノ氏名ヲ記載シタル

モノ

五 議員候補者ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ

但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 議員候補者ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七 議員候補者ノ何人ヲ記載シタルカヲ確認シ難

キモノ

八 都會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

第四十三條 投票ノ效力ハ選舉五會人ノ意見ヲ聽キ

選舉長之ヲ決定スヘシ

三。

第四十四條 都會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ

得タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選舉區ノ配當

議員數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ

五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數

同シキトキハ年長者ヲ取り年齡（五并）同シキトキハ選舉

長抽籤シテ之ヲ定ム

第四十五條 當選者選舉ノ期日後ニ於テ被選舉權ヲ

有セサルニ至リタルトキハ當選ヲ失フ

第四十六條 第二十三條第一項乃至第三項ノ規定ニ

依ル届出アリタル議員候補者其ノ選舉ニ於ケル議
員ノ定數ヲ超エサルトキハ其ノ選舉區ニ於テハ投
票ヲ行ハス

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ行フコトヲ要セサルトキ
ハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ投票管理者ニ通知シ併セ
テ之ヲ告示シ且都長官ニ報告スヘシ

投票管理者前項ノ通知ヲ受ケタトキハ直ニ其ノ旨
ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テハ選舉長ハ選舉ノ期日ヨリ五日以内ニ選舉會ヲ開キ議員候補者ヲ以テ當選者ト定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ議員候補者ノ被選舉權ノ有無ハ

選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第四十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉^會ニ關スル顯

示ヲ記載シ之ヲ朗讀シ二人以上ノ選舉立會人ト共

ニ之ニ署名スヘシ

選舉錄、投票錄、投票其ノ他ノ關係書類ハ選舉長(都長

官ノ指定シタル都ノ官吏又ハ吏員選舉長タル場合ニ於テハ都長官ニ於テ、選舉人名簿ハ区市町村長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スハシ

第四十八條 當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ

當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選者ノ住所氏

名ヲ告示シ且選舉録及投票録ノ寫ヲ添ハ之ヲ都長

官ニ報告スハシ當選者十キトキハ直ニ其ノ旨ヲ告

示シ且選舉録及投票録ノ寫ヲ添ハ之ヲ都長官ニ

報告スハシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受
 ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ都長官ニ申立ツヘシ
 一人ニシテ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終
 ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ
 當選ニ應スヘキカヲ都長官ニ申立ツヘシ其ノ期間
 内ニ之ヲ申立テサルトキハ都長官抽籤シテ之ヲ定
 ム
 第十四條第五項ニ掲クル在職ノ官吏以外ノ官吏ニ
 シテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非

サレハ^{當選ニ}應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日
以内ニ^{當選ニ}應スヘキ旨ヲ都長官ニ申立テサルトキ

ハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合
ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキ
ハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第四十九條 選舉長ハ前條第一項ノ報告ヲ爲シタル

トキハ直ニ選舉人名簿ヲ町村長ニ返付スヘシ

第五十條 當選者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルト

三五

キハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ第二項ノ規定ニ依リ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 當選ヲ辭シタルトキ

ニ 數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ第四十

八條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ當選ニ應

シ若ハ抽籤ニ依リ一ノ選舉區ノ當選者ト定リタ

ル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタ

ルトキ

- 三 第四十五條ノ規定ニ依リ當選ヲ失ヒヨルトキ
- 四 死亡者ナルトキ
- 五 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ當選無効ト爲リタルトキ但シ同一人ニ關シ前各號ノ事由ニ依ル選舉又ハ補闕選舉ノ告示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 六 第五十四條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ル訴訟ノ結果當選無効ト爲リタルトキ
- 前項ノ事由第四十八條第二項、第三項若ハ第五項、
五

規定ニ依ル期限前ニ生シタル場合ニ於テ第四十四
 條第一項但書ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ
 者アルトキ又ハ其ノ期限經過後ニ生シタル場合
 於テ第四十四條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得
 票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者アルトキハ直ニ
 選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムハシ
 前項ノ場合ニ於テ第四十四條第一項但書ノ得票者
 ニシテ當選者ト爲ラサリシ者選舉ノ期日後ニ於テ
 被選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ之ヲ當選者

ト定ムルコトヲ得ス

第一項ノ期間ハ第五十三條第六項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ選舉ヲ行フコトヲ得サル事由已ミタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ事由議員ノ任期滿了前六月以内ニ生シタルトキハ第一項ノ選舉ハ之ヲ行ハス但シ議員ノ數其ノ定數ノ三分ノ二ニ滿~~キ~~サレニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 第四十八條第二項ノ期間ヲ經過シタル

トキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又
 ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ
 都長官ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ
 於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ都
 長官ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十二條 選舉ノ規定ニ違反スルニトアルトキハ
 選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アレ場合ニ限り其
 ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス但シ當選ニ異動

ヲ生スルノ虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ
限リ當選ヲ失フコトナシ

第五十三條 選舉人又ハ議員候補者選舉又ハ當選

ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選

舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第四十八條第一項又

ハ第五十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ十四日以内

ニ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ都長官ハ十四日以内ニ都務事會ノ決定ニ付ス

ヘシ

天

都長官選舉スハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ
 前項申立ノ有無ニ拘ラス選舉ニ關シテハ第四十八
 條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之
 ヲ都參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得
 前二項ノ場合ニ於テハ都參事會ハ其ノ送付ヲ受ケ
 タル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ
 前項ノ規定ニ依ル都參事會ノ決定ニ不服アル者ハ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ規定ニ依ル都参事會ノ決定ニ付テハ都長
官ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十六條、第五十條又ハ第五十五條、^{第二項若ハ}第三項ノ選舉ハ

之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、
異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之
ヲ行フコトヲ得ス

都會議員ハ選舉若ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ
判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ

失ハス

第五十四條

衆議院議員選舉法第百十條ノ規定ノ準

用ニ依リ當選ヲ無效ナリト認ムルトキハ選舉人ス

ハ議員候補者ハ當選者ヲ被告トシ第~~百十~~^{四十八}條第一

項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スル

コトヲ得

衆議院議員選舉法第百三十六條ノ規定ノ準用ニ依

リ選舉事務員カ同法第百十二條又ハ第百十三條ノ

規定ノ準用ニ依ル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルニ因

リ當選ヲ無效ナリト認ムルトキハ選舉人又ハ議員

候補者ハ當選者ヲ被告トシ其ノ裁判確定ノ日ヨリ

三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前ニ項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告

スルコトヲ得

衆議院議員選舉法第八十五條、第八十七條及第四百

十一條ノ規定ハ前三項ノ規定ニ依ル訴訟ニ之ヲ準

用ス

第五十五條 選舉無效ト確定シタルトキハ三月以内

ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

當選無効ト確定シタルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ更ニ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第五十條第三項ノ規定ヲ準用ス

當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ三月以内ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第五十條第四項及第五項ノ規定ハ第一項及前項ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第五十六條 第五十條若ハ前條ノ選舉又ハ補闕選舉

ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シ
テ之ヲ行フ

第五十七條 都會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者

ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ都會議員カ
左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサ
ル場合ヲ除クノ外都參事會之ヲ決定ス

一 禁治産者又ハ準禁治産者ト爲リタルトキ

二 破産者ト爲リタルトキ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレ

タルトキ

都長官ハ都會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト

認ムルトキハ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ都參

事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之

ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルト

キハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ都長官ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十三條第七項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ本人ニ交付スヘシ

第五十八條 第十九條及第五十三條ノ場合ニ於テ都

参事會ノ決定及裁決ハ都長官、区市町村長ノ決定ハ

区市町村長直ニ之ヲ告示スヘシ

第五十九條 都會議員ノ選舉ニ關シテハ衆議院議員

選舉法第十章及第十一章並第百四十條第二項及第

百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補石一人ニ

付定ムハキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員

ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ム

ル所ニ依ル

第六十條 本法ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ

付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務権限

第六十一條 都會・市部會及郡部會ハ都ニ關スル事件
及法律勅令ニ依リ其ノ権限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第六十二條 都會・市部會及郡部會ノ議決スヘキ事件
ノ概目左ノ如シ

- 一 都條例及都規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- 二 都費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スルコト但シ

第一百十條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ
此ノ限ニ在ラス

- 三 歳入出豫算ヲ定ムルコト
- 四 決算報告ヲ認定スルコト
- 五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、午教料、
都税又ハ夫役現品ノ賦課徴収ニ關スルコト
- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スルコト
- 七 基本財産及積立金款等ノ設置管理及處分ニ關
スルコト
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ
義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲スコト

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト但シ法律
勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 都史員ノ身元保證ニ關スルコト

十一 都ニ係ル訴訟訴訟及和解ニ關スルコト

第六十三條 都會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市都會又ハ

郡都會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ都會ノ議決

ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ都長官之ヲ定ム

第六十四條 都會ハ其ノ権限ニ屬スル事項ノ一部ヲ

都參事會ニ委任スルコトヲ得

第六十五條 都會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬ス
ル選舉ヲ行フヘシ

第六十六條 都會ハ都ノ公益ニ關スル事件ニ付意見
書ヲ都長官又ハ内務大臣ニ提出スルコトヲ得

第六十七條 都會ハ行政官廳ノ諮問アルトキハ意見
ヲ答申スヘシ

都會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ為スヘキ場合ニ於テ都
會成立セス、召集ニ應セバ若ハ意見ヲ提出セス又
ハ都會ヲ召集スルト能ハサルトキハ當該行政官

廢ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ為スコトヲ
得

第六十八條 都會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ

選舉スヘシ

議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第六十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ

議長及副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨ

リ假議長ヲ選舉スヘシ

前項假議長ノ選舉ニ付テハ年長ノ議員議長ノ職務

三三

ヲ代理ス年^{五并}齡同シキトキハ袖裁ヲ以テ之ヲ是ム

第七十條 都長官及其ノ委任スハ囑託ヲ受ケタル者

ハ會議ニ列席シラ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議

決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ

許スヘシ但シ之ヲ爲議員ノ演說ヲ中止トシムルコ

トヲ得ス

第七十一條 都會ハ都長官之ヲ召集ハ議員定數三分

ノ一以上ノ請求アルトキハ都長官ハ之ヲ召集スヘ

シ

都會ハ會期ヲ定メテ之ヲ招集スヘシ都長官必要アリト認ムルトキハ會期ヲ延長スレコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

都會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ都長官ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得會議ニ付スル

日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

都會ハ都長官之ヲ開閉ス

三

第七十二條 都會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ

非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第七十四條ノ

除ルノ為半數ニ滿~~ル~~サルトキ、同一ノ事件ニ付招

集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿~~ル~~サルトキ又ハ召集ニ

應スルモ出席議員定數ヲ闕ク議長ニ於テ出席ヲ催

告シ仍半數ニ滿~~ル~~サルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條及第百二十四~~條~~條ノ事件ニ付テハ都會ハ

前項ノ規定ニ拘ラス議員定數ノ五分ノ四以上出席

スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第七十三條 都會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同

數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之ヲ為議員ト

シテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

第七十四條 議長又ハ議員ハ自己又ハ父母、祖父母、

妻、子孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テ

ハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都會ノ同意

ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第七十五條 法律勅令ニ依リ都會ニ於テ選舉ヲ行フ

トキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人
 毎ニ無記名投票ヲ為シ有效投票ノ過半数ヲ得タル
 者ヲ以テ當選者トス過半数ヲ得タル者ナキトキハ
 最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ
 為サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ
 年長者ヲ取り年齢（年并）同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ
 定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ
 當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齢（年并）同シ
 キトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第三十條及第四十二條ノ規定
ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ都會之
ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ都會ハ其ノ議決ヲ以テ指名
推選又ハ連名投票ノ法ヲ用フルコトヲ得其ノ連名
投票ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル
連名投票ノ法ヲ用フル場合ニ於テ其ノ投票ニシテ
第四十二條第一號、第六號及第七號ニ該當スルモ
ノ並其ノ記載人員選舉人ヘキ定數ニ過キタルモノ

ハ之ヲ無効トシ同條第二號第四號及第五號ニ該當
スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

連名投票ノ法ヲ用フル場合ニ於テ過半数ノ投票ヲ

得タル者選舉スヘキ定數ヲ超ユルトキハ最多數ヲ

得タル者ヨリ順次選舉スヘキ定數ニ至ル迄ノ者ヲ

以テ當選者トシ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年

齡^(モ)同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

第七十六條 都會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此

ノ限ニ在ラス

一 都長官ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止
 ヲ可決シタルトキ

前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ可否
 ヲ決スヘシ

第七十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ
 其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

議員定數ノ半数以上ヨリ請求アルトキハ議長ハ其
 ノ日ノ會議ヲ開クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ議長

仍會議ヲ開カサルトキハ第六十九條ノ例ニ依ル

前項議員ノ請求ニ依リ會議ヲ開キタルトキ又ハ議

員中異議アルトキハ議長ハ會議ノ議決ニ依ルニ非

サレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得

ス

第七十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クハ

カラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヒ又ハ他人ノ身上ニ涉

リ言論スルコトヲ得ス

第七十九條

會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他

議場ノ秩序ヲ

紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制

止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ従ハサルトキハ當

日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去

セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求

ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會

議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十條

傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其

ノ他會議ノ妨害ヲ為ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命
 ニ従ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ
 於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聴席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場
 セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求
 ムルコトヲ得

第八十一條 都會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務

ヲ處理セシム

書記ハ議長ニ任免ス

第八十二條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議

ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ

要ス其ノ議員ハ都會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ都長官ニ報告ス

ヘシ

第八十三條 都會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設

クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ

元

對シ都會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止スル規
定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 第六十四條乃至第七十一條、第七十二

條第一項、第七十三條乃至前條ノ規定ハ市部會及

郡部會ニ之ヲ準用ス

第三章 ~~郡~~ 都 參事會、市部參事會及郡部參事會

第一款 組織及選舉

第八十五條 都ニ都參事會、市部參事會及郡部參事

會ヲ置ク

都參事會ハ都長官、都高等官二人及名譽職都參事
會員十五人ヲ以テ之ヲ組織ス

市部參事會ハ都長官、高等官都參事會員及市部會
ニ於テ選舉セラレタル名譽職都參事會員ヲ以テ之
ヲ組織シ郡部參事會ハ都長官、高等官都參事會員
及郡部會ニ於テ選舉セラレタル名譽職都參事會員
ヲ以テ之ヲ組織ス

都高等官ニシテ都參事會員タルハキ者ハ内務大臣
之ヲ命ス

第二項及第三項ノ外都參與ハ都參事會員トシテ其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限り會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第八十六條 名譽職都參事會員ハ市部會ニ於テ十人
 郡部會ニ於テ五人ヲ各其ノ議員中ヨリ~~并~~選舉ス
 ヘシ其ノ選舉ニ關シテハ第三十條、第四十二條及
 第四十四條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議
 アルトキハ各部會之ヲ決定ス

名譽職都參事會員中關員アルトキハ直ニ補選選舉

ヲ行フヘシ

名譽職都參事會員ハ隔年之ヲ選舉スヘシ

名譽職都參事會員ハ後任者ノ就任スルニ至ル迄在

任ス都會議員ノ任期満了シタルトキ亦同シ

名譽職都參事會員ハ其ノ選舉ニ關シ第百~~七~~六條ノ處

分確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參

與スルノ權ヲ失ハス

第八十七條 都參事會、市部參事會及郡部參事會ハ

都長官ヲ以テ議長トス都長官故障アルトキハ高等

官都參事會會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款 職務權限

第八十八條 都參事會ノ權限左ノ如シ

一 都會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受

ケタルモノヲ議決スルコト

二 其ノ他法令ニ依リ都參事會ノ權限ニ屬スル事

件

第八十九條 都參事會ハ名譽職參事會會員中ヨリ委員

ヲ選舉シ之ヲシテ都ニ係ル出納ヲ検査セシムル事

トヲ得

前項ノ検査ニハ都長官又ハ其ノ指命シタル官吏若
ハ吏員之ニ立^會フコトヲ要ス

第九十條 都參事會ハ都長官之ヲ招集ス名譽職都參
事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ都長官ハ
之ヲ招集スヘシ

都長官ハ必要ナル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ都參
事會ヲ招集スルコトヲ得

第九十一條 都參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第九十二條 都参事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽

職都参事會員定數ノ半数以上出席スルニ非サレハ

會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第二項ノ除外ノ為名譽

職都参事會員其ノ半数ニ滿ルサルトキ同一ノ事件

ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職都参事會員其ノ半

數ニ滿ルサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席名譽職

都参事會員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍

半数ニ滿ルサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及都参事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子

孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ
 議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ都參事會ノ同意ヲ
 得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ年
 長ノ名譽職都參事會員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同
 シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三條 第八十八條乃至前條ノ規定ハ市部參事
 會及郡部參事會ニ之ヲ準用ス

第九十四條 第六十六條、第六十七條、第七十條、第

七十一條第五項、第七十三條、第七十五條、第七

十七條 ^{第二項} 乃 ~~第七十一條~~ 第七十九條、第八十一條並

第八十二條第一項及第二項ノ規定ハ都參事會、市

部參事會及郡部參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 都ノ官吏及吏員

第一款 都吏員ノ組織選舉及任免

第九十五條 都ハ都條例ヲ以テ都參與ヲ置クニトシ

得其ノ定數ハ其ノ都條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第九十六條 都參與ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又

ハ一部ヲ有給吏員ト為スコトヲ得此ノ場合ニ於テ

ハ前條ノ都條例中ニ之ヲ規定スヘシ

都參與ハ都長官ノ推薦ニ依リ都會之ヲ定ム

名譽職都參與ハ都公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

第九十七條 有給都參與ハ第六條第一項ノ規定ニ拘

ラス在職ノ間都公民トス

第九十八條 都參與ハ第十四條第二項又ハ第五項ニ

掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ヌ又都ニ對シ請負ヲ

為シ又ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付都長官

若ハ其ノ發任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ為ス者又
ハ主トシテ同一ノ行為ヲ為ス法人ノ無限責任社員、
取締役監査役若ハ之ニ準スヘキ者、清算人及支配
人タルコトヲ得ス

第九十九條 有給都參與ハ會社ノ取締役監査役若ハ
之ニ準スヘキ者、清算人又ハ支配人其ノ他ノ事務
員タルコトヲ得ス

第一百條 都長ヲ置キ都有給役員ハ都長

兼任ス

~~前条ノ規定ハ市長ニ之ヲ運用ス~~

第百一十條 都ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得ル

委員ハ名譽職トス都會議員、名譽職都參事會員又

ハ都公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ都長官ノ推薦ニ

依リ都會之ヲ定ム但シ委員長ハ都長官又ハ其ノ委

任ヲ受クタル都ノ官吏若ハ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

委員ノ組織ニ關シテハ都條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ

設クルコトヲ得

第百一十一條 都公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏

員

員又ハ職ニ就キタルカ為郡公民タル者選舉權ヲ有セサルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ為豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ都長官ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第百二條 有給都參與~~長~~兼~~長~~ノ外都ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ都長官之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ都會ノ議決ヲ經テ都長官之ヲ定
メ其ノ組織、任用及分限ニ關シテハ本法ニ規定ス
ルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百~~四~~^三條 都ニ都出納吏ヲ置キ都ノ官吏又ハ吏員ノ

中ニ就キ都長官之ヲ命ス

第二款 都ノ官吏及吏員ノ職務權限

第百~~四~~^四條 都長官ハ都ヲ統轄シ都ヲ代表ス

都長官ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 都會、市都會、郡都會、都參事會、市部參事

會及郡部參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議
案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スルコト

二 財産及營造物ヲ管理スルコト但シ特ニ之ヲ管

理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スルコト

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト

四 證書及公文書類ヲ保管スルコト

五 法令スハ都會、市部會若ハ郡部會ノ議決ニ依

リ使用料、手数料、都税スハ夫攷現品ヲ賦課徴

收スルコト

六 其ノ他法令ニ依リ都長官ノ職權ニ屬スル事項

第百~~五~~條 都長官ハ都吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲

戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓

以下ノ過怠金及解職トス但シ都參與——~~車長~~及命令

ヲ以テ定ムル都吏員ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ

議決ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ内務大臣ノ命シタル都高等官三人及

名譽職都參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ

其ノ會員トシ都長官ヲ以テ會長トス都長官故障_ア

四七

ルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

名譽職都參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉及補闕
並懲戒審査會ノ招集及會議ニ付テハ本法中名譽職
都參事會員及都參事會ニ關スル規定ヲ準用ス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキ
ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

都長官ハ都吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職
ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間
報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間都、區、市、町、
村ノ公職ニ就クコトヲ得ス
選舉セラルル又ハ任命セラルルコトヲ得

兼

第百六條 都會又ハ都參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權

限ヲ越ス又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルト

キハ都長官ハ其ノ意見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮

ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消

シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決

ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スハシ

史

前項ノ取消處分ハ都會又ハ都參事會開會中ニ非サ
ルトキハ之ヲ告示スヘシ

第一項ノ取消處分ニ不服アル都會又ハ都參事會ハ
行政裁判所ニ出訴スルトコトヲ得

都會又ハ都參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ都ノ收支
ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ都長官ハ其ノ意
見ニ依リ又ハ内務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ
之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務
大臣ノ指揮ヲ請フ、シ但シ都ノ收支ニ關シ不適當

ノ議決ヲ為シタルトシテハ場合ニ依リ再議ニ付セス
シテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

第百~~七~~七條 都會成立セサルトキ、第七十~~二~~二條但書ノ

場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ都

長官ニ於テ都會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ

ハ都長官ハ都會ノ權限ニ屬スル事件ヲ都參事會ノ

議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ都參事會ニ於テ議決ヲ為ストキ

ハ都長官、高等官都參事會員及都參與ハ其ノ議決

ニ加ハルコトヲ得ス

都参事會成立セサルトキスハ第九十二條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ都長官ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

都會又ハ都参事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

都参事會ノ決是又ハ裁決スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル都長官ノ處分ニ

關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起
スルコトヲ得

第一項及前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ
會議ニ於テ之ヲ都會又ハ都參事會ニ報告スヘシ

第百^八條 都參事會ニ於テ議決、決定又ハ裁決スヘキ

事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ都參事會
成立セサルトキ又ハ都長官ニ於テ之ヲ召集スルノ
暇ナシト認ムルトキハ都長官ハ之ヲ專決シ次回ノ
會議ニ於テ之ヲ都參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ都長官ノ爲シタル處分ニ關シテ
 ハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコ
 トヲ得

第百九條 都參事會ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其

ノ議決ニ依リ都長官ニ於テ專決處分スルコトヲ
 得

第百十條 都長官ハ都ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬

スル事務ノ一部ヲ區市町村ノ吏員ニ補助執行セシ

メ又ハ委任スルコトヲ得

都長官ハ都ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ都ノ官吏吏員ニ委任シ又ハ都吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第一百十條 都長官其ノ他都ノ官吏ハ法律勅令ノ定

ムル所ニ依リ府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

都吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前ニ項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ都ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在

ラス

第百十~~二~~條 官吏ノ都ノ行政ニ關スル職務關係ハ本

法中規定アルモノヲ除クノ外國ノ行政ニ關スル其

ノ職務關係ノ例ニ依ル

第百十~~三~~條 都參與ハ都長官ノ指揮監督ヲ承ケ都ノ

經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第百十五條 市長ハ都長官ノ命ヲ承ケ又ハ法令ニ是

レ依リ市内ノ事務ヲ掌ル

第百十四條 委員ハ都長官ノ指揮監督ヲ承ケ財産又

ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル都ノ事務
ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第百十^五條 第百^五條ノ吏員ハ都長官ノ命ヲ承ケ事

務ニ從事ス

第百十六條 都出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第百十九^六條 ~~第百十條~~、第百^六條乃至第百^九條ノ規

定ハ市部會、郡部會又ハ市部參事會、郡部參事會ニ之ヲ準用ス

第五章 給料及給與

第百^十條 名譽職都參與、都會議員、名譽職都參

五二

事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ為要スル費用ノ
辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職都參與及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當
スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ都會ノ議決
ヲ經テ都長官之ヲ定ム

第百十九條 有給都參與 | 市長其ノ他ノ有給吏員

ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ都會ノ議決ヲ

經テ都長官之ヲ定ム

市都會及郡都會

第二百十條 有給吏員ニハ都條例ノ定ムル所ニ依

リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助

料ヲ給スルコトヲ得

第二百十一條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職

料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給

與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ都長官ニ

申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ノ申立アリタルトキハ都長官ハ七日以

内ニ之ヲ都參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決

市部參事會又ハ郡部參事會

是ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ付テハ都長官ヨリモ訴訟ヲ提起スル

コトヲ得

第百二十~~四~~^二條 賞用辨償、報酬、給料、旅費、退隱

料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他

ノ給與ハ都ノ負擔トス

~~第百二十五條 第百六十一條、第百六十一條及第百六~~

~~十三條中都會ニ關スル規定ハ市都會及郡都會ニ同~~

~~條中都會事令ニ關スル規定ハ市都會及郡都會事令及郡都會事~~

事令ニ依リテ準用ス

第六章 都ノ財務

第一款 財産營造物及都税

第二百二十三條 都ノ經濟ハ市部及郡部ノ區分ニ依リ

之ヲ分別ス

區ヲ置ク區域ヲ市部トシ^其市町村ヲ置^他ク區域ヲ郡部

トス

0235

第二百二十四條 都費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入

ノ割合ハ都會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ都

書

長官之ヲ定ム

第百二十五^五條 收益ノ為ニスル都ノ財産ハ基本財産

トシ之ヲ維持スヘシ

都ハ特定ノ目的ノ為特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金

穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第百二十九^六條 都ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徴收

スルコトヲ得

都ハ特ニ一個人ノ為ニスル事務ニ付手数料ヲ徴收

スルコトヲ得

第百^{二十七}條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞

力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ

要スルトキ、入札ノ價格其ノ費用ニ比シテ得失相償ハ

サルトキ又ハ都會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

市都會又ハ郡都會

第百^{二十八}條 都ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テ

ハ寄附又ハ補助ヲ為スコトヲ得

第百^{二十九}條 都ハ其ノ必要ナル費用並從來法令又

ハ慣例ニ依リ府縣又ハ市ノ^{町村}負擔ニ屬スル費用及將

來法律勅令ニ依リ都ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨ス

ル義務ヲ負フ

第三百三十一條 都税及其ノ賦課徴収ニ付テハ法律勅

令ニ規定アルモノノ外府縣税ノ例ニ依ル

第三百三十一條 三月以上都内ニ滞在スル者ハ其ノ滞

在ノ初ニ遡リ都税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第三百三十一條 都内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞

在スルコトナシト雖都内ニ於テ土地家屋物件ヲ所

有シ使用シ若ハ占有シ、都内ニ營業所ヲ設ケテ營

業ヲ爲シ又ハ都内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其

ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ
行為ニ對シテ賦課スル都税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百三十~~三~~^三條 納税者ノ都外ニ於テ所有シ使用シ占

有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ都外ニ於テ

營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ~~都~~都

税ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滞在同時ニ都ノ内外ニ渉ル者ノ前項以外ノ收

入ニ對シ都税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ都及關

係府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第三百三十四條 都ノ内外ニ涉リ營業所ヲ設ケテ為ス

營業又ハ其ノ收入ニ對シ本税ヲ分別シテ納ムサル
 者ニ對シ都及關係府縣ニ於テ營業收益税附加税所
 得税附加税又ハ鑛産税附加税ヲ賦課スルトキハ都
 長官及關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定ム若シ協
 議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
 鑛區又ハ砂鑛區ヲ都ノ内外ニ涉ル場合ニ於テ鑛區
 税又砂鑛區税ノ附加税ヲ賦課スルトキハ鑛區又ハ
 砂鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ本税ヲ分割シ其

ノ一部ニノミ賦課スヘシ

第三百三十^五條 所得税法第十八條ニ掲クル所得ニ對

シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地ニ

並教會所説教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ

對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニラ

之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所説教所ノ

用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國又ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營

業

造物ニ對シテハ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有
料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテ
ハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行為及國有ノ土地家屋物件ニ對シテ
ハ國ニ都税ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外都税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別
ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百三十~~七~~^六條 都ハ公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課税ヲ不適

當トスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ都税ヲ課セサルコトヲ得

第百^{三十七}條 數人又ハ都ノ一部ニ對シ特ニ利益アル

事件ニ關シテハ都ハ不均一ノ賦課ヲ為シ又ハ數人

若ハ都ノ一部ニ對シ賦課ヲ為スコトヲ得

第百^{三十八}條 夫役又ハ現品ハ直接都税ヲ準率ト為

シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ特別ノ必

要アルトキハ直接都税ヲ準率ト為ササルコトヲ得

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課

スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ

適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役

ニ付テハ之ヲ適用セス

第百~~中~~^{三十九}條 非常災害ノ爲必要アルトキハ都ハ他

人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ

物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失

ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険防止ノ爲必要アルトキハ都

長官又ハ警察官吏ハ都内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハカルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ内務大臣之ヲ決定ス

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ処分ヲ受ケタル者其ノ処分ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願

スルコトヲ得

第四百十四條 都税ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於

テハ當該官吏吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ

關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢

シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏吏員ハ其ノ身分ヲ證

明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第四百十四條 都長官ハ納税者中特別ノ事情アル者

ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル

場合ハ市部参事會又ハ郡部参事會ノ議決ヲ經ヘシ

都長官ハ特別ノ事情アル者ニ限り市部参事會又ハ

郡部参事會ノ議決ヲ經テ都税ヲ減免スルコトヲ得

第四百十二條 使用料、手数料及都税ニ關スル事項ニ

付テハ法令ニ規定アルモノノ外都條例ヲ以テ之ヲ

規定スヘシ

詐偽其ノ他ノ不正ノ行為ニ依リ使用料ノ徴收ヲ免

レスハ都税ヲ通脱シタル者ニ付テハ都條例ヲ以テ

其ノ徴收ヲ免レスハ通脱シタル金額ノ三倍ニ相當

六。

スル金額(其ノ金額五圓未満ナルトキハ五圓)以下ノ
 過料ヲ料スル規定ヲ設クルコトヲ得

前項ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料及都税
 ノ賦課徴収ニ關シテハ都條例ヲ以テ五圓以下ノ過
 料ヲ料スル規定ヲ設クルコトヲ得財産ノハ營造物
 ノ使用ニ關シ亦同シ

過料ヲ料シ及之ヲ徴收スルハ都長官之ヲ掌ル其ノ
 處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコト
 ヲ得

第百四十三條 都税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ

付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴税令等ノ文

付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ都長官ニ異議ノ申

立ヲ為スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者

ハ之ヲ都長官ニ申立ツルコトヲ得

前ニ項ノ異議ノ申立アリタルトキハ都長官ハ七日

以内ニ之ヲ市部參事會又ハ郡部參事會ノ決定ヲ付

スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキ

ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料及手数料ノ徴收並夫
彼現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定ニ付テハ都長官、其ノ委任
ヲ受ケタル官吏吏員又ハ区市町村ノ吏員ヨリモ訴
訟ヲ提起スルコトヲ得

第百四十四條 都税、使用料、手数料、過料、過怠金、其ノ他
ノ都ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ都長
官ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

天役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ
 為サス又ハ天役現品ニ代フル金銭ヲ納メサルトキ
 ハ都長官ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スハシ急迫ノ
 場合ニ賦課シタル天役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算
 出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ
 前二項ノ場合ニ於テハ都條例ノ定ムル所ニ依リ手
 敷料ヲ徴收スルコトヲ得
 滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其
 ノ指定期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滞納處

分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先
取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例
ニ依ル

前三項ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

第三項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至
ル迄執行ヲ停止ス

第四百十八條^五 都ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、都ノ永久ノ

利益ト爲ルハキ支出ヲ爲ス爲スハ天災事變等ノ爲
 必要アル場合ニ限り都債ヲ起スコトヲ得

都債ヲ起スニ付都會、市部會又ハ郡部會ノ議決ヲ經
 ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方
 法ニ付議決ヲ經ヘシ

都長官ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲都參事會、市部參事
 會又ハ郡部參事會ノ議決ヲ經テ一特ノ借入金ヲ爲
 スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還

六二

スヘシ

第二款 歳入出豫算及決算

第百四十六條 都長官ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調

製シ遅クトモ年度開始ノ一月前ニ都會市部會又ハ

郡部會ノ議決ヲ經ヘシ

都ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ都會市部會又ハ郡部會ニ提出スルトキハ都

長官ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第百四十七條 都長官ハ都會市部會又ハ郡部會ノ議

決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百四十八條 都費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年

ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ都會市部會

又ハ郡部會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出

額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百四十九條 都ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支

出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

特別會計ニハ豫備費ヲ設ケサルコトヲ得

豫備費ハ都會市部會又ハ郡部會ノ否決シタル賞途ニ充ツルコトヲ得ス

第百五十條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ内務大

臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百五十一條 都ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百五十一條 都ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ

府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百五十三條 都ノ出納ハ毎會計年度少シトモニ回

檢査ヲ爲ス

検査ハ都長官之ヲ為シ名譽職都参事會員ニ於テ互
選シタル都参事會員ニ人以上ノ立會ヲ要ス

第百五十四條 都ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以

テ閉鎖ス

都長官ハ出納閉鎖後一月以内ニ決算ヲ調數シ次ノ
通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ都會ノ認定ニ付ス
ヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル都會ノ議決ト共ニ之ヲ内

務大臣ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百五十五條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ

關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第七章 都ノ監督

第百五十六條 都ハ内務大臣之ヲ監督ス

第百五十七條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ憲命又

ハ決定ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ為ス

ヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限

ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分、決定、裁定又ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ第七百七條第二項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル場合ニ於テハ告示ノ日ヲ以テ處分ヲ受ケタル日ト看做ス

決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル

異議ノ申立ハ期限經過後ニ於テモ宥恕スヘキ事由
アリト認ムルトキハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ
之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ
行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ

必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百~~十~~^{五十八}條 異議ノ決定ハ本法中別ニ期間ヲ定メ

タルモノヲ除クノ外其ノ決定ニ付セラレタル日ヨ

リ三月以内ニ之ヲ爲スヘシ

都参事會訴願ヲ受理シタルトキハ其ノ日ヨリ三月
以内ニ之ヲ裁決スヘシ

第百~~五十九~~^{五十九}條 内務大臣ハ都ノ監督上必要アル場合

ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ徴シ及
實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコト
ヲ得

内務大臣ハ都ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處
分ヲ爲スコトヲ得

第百六十條 内務大臣ハ勅裁ヲ經テ都會、市部會又

ハ郡部會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ

議員ハ都會議員ノ職ヲ失フ

都會、市部會又ハ郡部會解散ノ場合ニ於テハ三月以

内ニ議員ヲ選舉スヘシ

市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタル場合ニ於テ

前項ノ規定ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期ニ付

テハ第十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第百六十條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ

受クヘシ

一 都條例ヲ設ケ又ハ改正スルコト

二 基本財産及特別基本財産ノ處分ニ關スルコト

第百六十條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大

臣ノ許可ヲ受クヘシ

一 都債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ

方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第百四十

條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 使用料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スルコト

第百六十~~三~~^三條

主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テ

ハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範

圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百六十~~四~~^四條

主務大臣ノ許可ヲ要スル事件ニ付テ

ハ輕易ナルモノニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ

許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百六十~~五~~^五條

都吏員及都出納吏ノ服務規律、賠償責

任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引継ヲ拒ミタル者ニ對シニ十
五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第八章 区市町村

第一款 總則

第百六十六條 都ニ区市町村ヲ置ク

第百六十七條 區ハ従前ノ東京市ノ區ノ區域又ハ勅

令ヲ以テ定ムル區域ニ依リ市町村ハ従前ノ市町村

ノ區域ニ依ル

第二款 區

第百六十八條 區ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍

内ニ於テ其ノ財産ニ關スル事務其ノ他勅令ヲ以テ定ムル

公共事業並法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

第百六十九條 區ノ廢置分合ヲ為サムトスルトキハ

關係アル區市町村會及都參事會ノ意見ヲ徵シ内務

大臣之ヲ定ム

區ノ境界變更ヲ為サムトスルトキハ都長官ハ關係

アル區市町村會ノ意見ヲ徵シ都參事會ノ議決ヲ經

内務大臣ノ許可ヲ得テ都長官之ヲ定ム

都ノ境界變更ニ伴フ區ノ廢置又ハ境界變更ニ付テ

ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル

所屬未定地ヲ都ノ區域ニ編入スル場合ニ於テ其ノ

所屬スヘキ區ヲ定ムルニ付テハ第三條第二項ノ規

定ニ依ル

區ノ廢置分合又ハ境界變更ノ場合ニ於テ財產アル

トキハ其ノ處分ハ關係アル區市町村會ノ意見ヲ徵

シ都參事會ノ議決ヲ經テ都長官之ヲ定ム但シ第三

項ノ場合ニ於ケル財産處分ニ關シテハ第三條第三
項ノ例ニ依ル

第百七十四條 都公民ニシテ區住民タル者ハ區ノ選

舉ニ參與シ區ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ

區ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選

ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執

行セサルトキハ區ハ一年以上四年以下區ノ公務ニ

參與スルノ權ヲ停止スルコトヲ得

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 業務ノ爲常ニ区内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齢六十年以上ノ者
- 四 官公職ノ爲區ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年以上其ノ區又ハ都ノ名譽職ニ任シ爾後同
一ノ期間ヲ経過セサル者
- 六 其ノ他區會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認
ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキ

ハ都参事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ都長官又ハ區長ヨリ元訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百七十一條 區ニ區會ヲ置ク

第一百七十二條 都會議員ノ選舉權ヲ有スル都公民ニ

シテ區住民タル者ハ其ノ區ノ區會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ第一百七十二條第二項ノ規定ニ依リ區ノ公

務ニ參與スルノ權ヲ停止セラレタル者其ノ停止中
ハ此ノ限ニ在ラス

第一百七十三條 選舉權ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

在職ノ檢事、警察官吏及收税官吏ハ被選舉權ヲ有セ

ス

選舉事務ニ關係アル官吏都又ハ區ノ有給吏員ハ其

ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

區ニ對シ請負ヲ爲シ又ハ區ニ於テ費用ヲ負擔スル

事業ニ付區長若ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請

七三

員ヲ為ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行為
 ヲ為ス法人ノ無限責任社員、取締役監査役若ハ之ニ
 準スヘキ者、清算人及支配人ハ其ノ區ニ於テ被選舉
 權ヲ有セス

區ノ有給ノ吏員教員其ノ他職員(學區立ノ學校ノ教
 員職員ヲ含ム)ニシテ在職中ノ者ハ區會議員ト相兼
 スルコトヲ得ス

第百七十四條 區會議員ノ選舉ハ其ノ區ニ於ケル都
 會議員選舉人名簿ニ依リ之ヲ行フ

第百七十五條

區ニ區長及助役一人ヲ置ク

助役ノ定數ハ區條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得

第百七十六條

區長及助役ハ有給吏員トシ其ノ任期

ハ四年トス

區長ハ都長官ノ推薦ニ依リ區會之ヲ定メ内務大臣

ノ認可ヲ受クヘシ

助役ハ區長ノ推薦ニ依リ區會之ヲ定メ區長職ニ在

ラサルトキハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス



區長ハ都長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退

職スルコトヲ得ス

助役ハ其ノ退職セムトスル日前三十日迄ニ申立ツ

ルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス但シ區會

ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百七十七條 區ニ區出納吏ヲ置キ區吏員ノ中ニ就

キ區長之ヲ命ス

區出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第百七十八條 區ニ關シテハ前數條ニ規定スルモノ

ノ外市制第五條、第七條、第八條、第十一條乃至第十三

條、第十六條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條
 乃至第三十九條ノ三、第四十一條乃至第七十一條、第
 七十六條乃至第七十八條、第八十二條第一項及第二
 項、第八十三條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九
 十六條、第一百條乃至第一百二條、第一百四條乃至第百四十
 三條、第四百十九條乃至第四百七十一條、第四百七十四條
 乃至第四百七十六條ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ規定
 中市公民トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ有スル者、其
 ノ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業トアルハ其ノ區若

ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業、府縣知事トアルハ
 都長官、府縣參事會トアルハ都參事會、府縣稅トアル
 ハ都稅、直接府縣稅トアルハ直接都稅、府縣トアルハ
 都、市町村トアルハ區市町村、市町村組合トアルハ區
 市町村組合、市町村ノ公職トアルハ都區市町村ノ公
 職トシ第百七十條ノ懲戒審査會ハ本法第百五條ノ
 懲戒審査會ヲ以テ之ニ充ツ

第三款 市町村

第百七十九條 市町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法

令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣
 例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル事
 務ヲ處理ス

第一百八十條 市ノ廢置分合又ハ境界變更ニ關シテハ

第一百六十九條ノ例ニ依ル

町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキ

ハ都長官ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ都太事

會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキハ其ノ處分ハ關係

並

アル市町村會ノ意見ヲ徵シ郡部參事會ノ議決ヲ經
テ都長官之ヲ定ム

都ノ境界變更ニ伴フ町村ノ廢置又ハ境界變更ニ付
テハ第三條第一項ノ規定ニ依ル

第二項ノ處分ニシテ區ノ境界ニ關スルトキハ第百
六十九條ノ例ニ依ル

第百八十一條 第百七十條ノ規定ハ市町村會議員ノ
選舉權ヲ有スル者ニ、第百七十二條ノ規定ハ市町村
會議員ノ選舉權ニ、第百七十三條及第百七十四條ノ

規定ハ市町村會議員ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第百八十二條 前三條ニ規定スルモノノ外市ニ關シ

テハ市制第五條、第七條、第八條、第十一條乃至第十三

條、第十六條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條

乃至第三十九條、第三十九條ノ三第二項、第四十一條

乃至第七十九條、第八十二條第一項及第二項、第八十

三條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十七條、第

百條乃至第百二條、第百四條乃至第百七十一條及第

百七十四條乃至第百七十六條ノ規定ヲ、町村ニ關シ

テハ町村制第四條乃至第六條、第九條乃至第十一條、
 第十四條、第十六條、第十七條、第十九條乃至第三十六
 條、第三十六條ノ二、第三十九條乃至第五百五十一條及
 第五百五十四條乃至第五百五十六條ノ規定ヲ準用ス但
 シ其ノ規定中市公民トアルハ市會議員ノ選舉權ヲ
 有スル者、町村公民トアルハ町村會議員ノ選舉權ヲ
 有スル者、其ノ市ニ於テ費用ヲ負擔スル事業トアル
 ハ其ノ市若ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業、其ノ町
 村ニ於テ費用ヲ負擔スル事業トアルハ其ノ町村若

ハ都ニ於テ費用ヲ負擔スル事業、府縣トアルハ都、府
 縣知事トアルハ都長官、府縣參事會トアルハ都參事
 會、府縣稅トアルハ都稅、直接府縣稅トアルハ直接都
 稅トシ市制第百七十條及町村制第百五十條ノ懲戒
 審査會ハ本法第百五條ノ懲戒審査會ヲ以テ之ニ充
 ツ

第九章 雜則

第百八十三條 都ハ第二條ノ事務中從來法令又ハ慣例

ニ依リ市町村ニ屬スル事務ニ付テハ第百二十三條

七七

ノ市部ノ區域ニ限リ之ヲ處理ス

第百八十四條 第十一條ノ人口ハ内務大臣ノ定ムル

所ニ依ル

第百八十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類

ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百八十六條 第七十條及第百三條ノ規定ニ依ル郡

長官ノ職權ハ警視總監モ亦之ヲ行フ

第百八十七條 都及區市町村ニ於テ賦課スル國税附

加税ノ制限率五段別割ノ制限額ハ左ノ各號ニ規定
スル所ニ依ル

一 明治四十一年法律第三十七號第一條乃至第三
條ニ府縣ト其ノ他ノ公共團體トニ付規定シタル
各税ノ制限率ニ依リ賦課シ得ヘキ附加税額ヲ合
算シタル税額ノ各本税額ニ對スル比率スハ府縣
ト其ノ他ノ公共團體トニ付規定シタル制限額ヲ
合算シタルモノトス

二 礦業法第八十八條、砂礦區税法第三條及取引所

七八

税法第三十二條ノ適用ニ關シテハ府縣ト市町村
 トニ付規定シタル制限率ニ依リ賦課シ得ヘキ附
 加税額ヲ合算シタル税額ノ各本税額ニ對スル比
 率トス

都又ハ區市町村ニ於テ各其ノ賦課スヘキ都税又ハ
 區市町村税ノ制限率及制限額ハ前項ノ制限内ニ於
 テ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ依ル制限

率又ハ制限額ハ明治四十一年法律第三十七號第一
 條乃至第三條ノ規定ニ依ル制限率又ハ制限額ト看
 做ス

都ニ於テ賦課スル都市計畫法第八條第一項第一號
 乃至第三號ノ規定ニ依ル特別税ノ制限率ハ同法ニ
 規定スル各税ノ制限率ノ二倍トス

第百八十八條 本法中官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏
 ニ之ヲ適用ス

第百八十九條 第一條中市町村トアルハ島嶼町村制
 七九

ニ依ル町村ヲ含ム

第百九十條 従前ノ東京府ニ屬シタル島嶼ニ關スル

都ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルユトヲ得

前項ノ島嶼ノ行政ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依

ル

第百九十一條 都ノ境界變更アリタル場合ニ於テ都

ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ

外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附
則

第百九十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ム但シ第百九十四條ノ規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百九十三條 第百二十三條ノ郡部ノ區域内ニ於ケ

ル従前ノ市町村ノ營造物、事業及權利義務ハ従前ノ

市町村ト同一ノ區域ヲ以テ區域トスル都ノ市町村

ニ歸屬ス

従前ノ東京府ニ屬シタル島嶼町村制ノ規定ニ依ル

町村ノ營造物、事業及權利義務ノ歸屬ニ付テハ勅令

ノ定ムル所ニ依ル

第百九十四條 従前ノ東京府、東京市及東京市ノ區域

第百二十三條ノ市部ノ區域ニ於ケル従前ノ町村ノ

營造物、事業及權利義務ノ歸屬ニ付テハ關係アル東

京府會、市部會、郡部會及市區町村會ノ意見ヲ徵シ内

務大臣之ヲ定ム

第百九十五條 従前ノ東京府ノ區域(島嶼ノ區域ヲ除

ク)ニ於テ本法ノ施行ニ至ル迄引續キ住所ヲ有シタ

ル者ハ同一期間引續キ都ニ於テ住所ヲ有シタル者

ト看做ス

第百九十六條 衆議院議員選舉ニ關スル罰則ノ適用

又ハ準用ニ依リ本法施行ノ際東京府ノ區域ニ於テ

府會議員、市町村會議員又ハ東京市ノ區ノ區會議員

ノ選舉權及被選舉權ヲ有セサル者ハ仍其ノ選舉權

ヲ有セサル期間都會議員及區市町村會議員ノ選舉

權及被選舉權ヲ有セス

第百九十七條 本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ

於テ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十七條、第十八條

及第二十條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キト
 キハ命令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ
 其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力
 ヲ有ス

第九十八條 本法施行ノ際大正十四年法律第四十

七號衆議院議員選舉法未タ施行セラレサル場合ニ

於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレ

タルモノト看做ス

第九十九條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ

0291

Y

以
テ
之
ヲ
定
ム

理由

帝都ノ地タル政治文化ノ中心ニシテ其ノ行政複雑多
岐ニ涉リ之カ治務ノ舉否ハ國運ノ隆替ニ關スル所歟
カラサルヲ以テ帝都ニ適切ナル制度ヲ樹テ統一アル
行政ヲ執行スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナ
リ